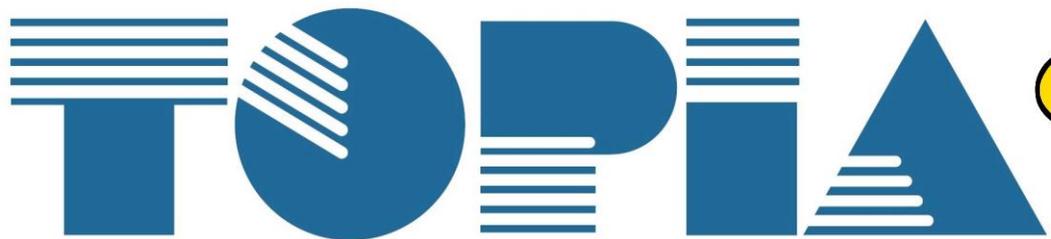




第74号



2018.09

TOKUSHIMA PREFECTURAL INTERNATIONAL EXCHANGE ASSOCIATION

発行／公益財団法人徳島県国際交流協会

TEL : 088-656-3303



暑さに負けずに
ヤットサーヤットサー♪



やさしい日本語での落語会では、5カ国14名を含む51名が「チリトテチン」を楽しみました。



サマースクールには7カ国にルーツを持つ子ども達12名が参加してくれました。暑さに負けず頑張りました。



英語セミナーには生徒33名、JET51名の合計84名が参加しました。



当協会では、国際交流や国際理解、多文化共生に対する理解を深めるために、年間を通じて様々なイベントを開催しています。特に7月から8月にかけては、夏の暑さに負けないエネルギーあふれるイベントが盛りだくさんでした。

7月末から8日間開催したサマースクール「夏休み子ども日本語教室」では、日本語の勉強や、夏休みの宿題に一生懸命取り組む子ども達の姿が見られました。8月12日から14日に開催した中高校生夏期英語セミナーでは、未来を担う中高校生が、多国籍の外国語指導助手や国際交流員とふれあうことで、より一層の国際理解を深めました。また、8月25日の「やさしい日本語での落語会」では、徳島在住の落語家、桂七福さんに「チリトテチン」を披露していただくことにより、日本の伝統文化である落語を楽しんでいただくとともに、多くの外国人に伝わりやすい「やさしい日本語」を、たくさんの方々に知っていただく良い機会となりました。7月22日は「外国人による徳島県日本語弁論大会」、8月14日には阿波おどり交流事業「あらしわ連」も実施され、まさに暑さに負けないイベントラッシュの夏となりました。

どのイベントにつきましても、多くの皆様のご協力により、盛況のうちに終わることができましたことを心より感謝申し上げます。当協会は、引き続き、国際交流や国際理解、多文化共生の推進に努めてまいります。

8月14日（火）、27カ国の外国人107名を含む総勢240名が徳島市内演舞場に踊り込み、棧敷でのおどりを堪能しました。参加者は「世界はひとつ、あらそわ連。ヤットサー、ヤットサー」と大きなかけ声で阿波おどりを満喫し、相互理解を深めました。昨年から実施している選抜チーム一員のジョナサン・レ・ルーさんに日本を離れる前にあらそわ連に対する思いの文を綴っていただきました！

阿波おどい2018:新旧の燃える阿呆でいっぱい!

ジョナサン・レ・ルー

この8年間毎年欠かすことなく阿波おどりを踊ってきましたが、自分にとって阿波おどりは未だ新鮮なままです。徳島の盆には、踊りの躍動、活気熱気、笑顔、そのすべてがあります。今年も例外ではありません。幸いなことに2010年に日本に来て以来、変わらず「あらそわ連」の一員として踊ることができ、この連が持つ特有の空気を楽しんできました。すなわち、祭りの伝統に敬意を払い、連としての一体感をかもしつつ、平和のメッセージを発信しながら、極めて愉快地に過ごしました。

私が所属している選抜チームは、伝統を正しく継承するために、阿波おどり本番を迎える何カ月も前から熱心に取り組んできました。筋肉痛や足に出来たマメが努力の証です。しかし、その価値は十分にありました。選抜チームが後に続く一般新人踊り子たちの頼もしい手本となって、お囃子の拍子に乗らせ、踊りの流儀に引き込んでいきました。今年の連には、趣旨に賛同したたくさんの顔が加わり、彼らの情熱が注ぎ込まれて、あらそわ連は今後も安泰です。私にとっての最後の阿波

おどりにあたり、来年のあらそわ連は間違いなく私たちの踊りへの情熱を受け継ぐであろうし、今年の連も間違いなく阿波おどりに共感し始めた、と安堵しています。

私にとって、あらそわ連はいつでも阿波おどりの心意気の表明でありました。「踊る阿呆に、見る阿呆、同じ阿呆なら、踊らにやそん、そん。」我々は皆、国籍や信条が違ってはいますが、ひとたびぞめきに導かれて棧敷に集ったならば、我々はひとつであり、此処にはもはや紛争や相違がはびこる余地はありません。



おどりを楽しむ筆者(写真中央)



2018年度 外国人による徳島県日本語弁論大会

去る7月22日日曜日、阿波銀ホールにおいて、「2018年度外国人による徳島県日本語弁論大会」を開催いたしました。県内在住の外国人が身につけた日本語を駆使して弁論を発表するもので、予選応募者12カ国29人の中から選ばれた8カ国13人が大会に臨みました。慣習の違いや、言語の違いで苦労したこと、日本の文化に触れて感心したこと、日本や母国での今後の夢など、内容は多岐にわたっていました。約200人の聴衆は、爆笑あり涙あり、そして大いに感心させられ、感動的な時間を過ごしました。

今大会で最優秀賞を受賞されたのは、鳴門教育大学大学院のエメルエ エリザベス ウゴチさんです！

日本での私のチャレンジと夢

エメルエ エリザベス ウゴチ (ナイジェリア連邦共和国)

皆様こんにちは。私はエメルエ エリザベス ウゴチと申します。アフリカのナイジェリアから参りました。私は鳴門教育大学の教員研修留学生です。去年の10月から今年3月まで、徳島大学の日本語研修コースで勉強し、その後、鳴門教育大学で研究をしています。私の趣味は、読書、料理、そして、野球をしたり、映画を見たりすることです。



最優秀賞
スピーチ

私の国ナイジェリアは、アフリカ西部にあるとても大きな国です。ナイジェリアの人口は2億人ぐらいで、最も人口の多い国です。ナイジェリアの公用語は英語です。それは、以前、英国の植民地だったからです。でも、実は200語ぐらいの言語があって、そのうちの3つが主要言語とされています。その3つは、ハウサ語とイボ語とヨルバ語と言います。私はイボという部族の出身で、ありがたいことに、この3つの主要言語を話すことができます。

皆さんはナイジェリアというと、どんなイメージをお持ちですか？ナイジェリアは野生生物と天然資源が豊富です。ワニ、ゴリラ、ゾウなどの野生生物がいます。また、ナイジェリアで最大の輸出品は原油ですが、その他に、天然ガス、鉄鉱石などが採れます。

首都のアブジャは、国の真ん中にあります。1991年に旧首都ラゴスから遷都された、アフリカでは唯一の計画都市で、ナイジェリアで最も安全で美しい都市です。（写真提示）そしてなんと、このアブジャ市街を設計したのは日本人です。この人です。（写真提示）皆さんご存じの丹下健三です。ここに私の家族が住んでいます。私の夫は、エンジニアです。今年娘は5歳に、息子は3歳になりました。今は母が彼らを世話してくれています。

日本に来る前に、約7年高校で生物学を教えました。その後、試験に合格して、日本で勉強する奨学金を得ました。去年10月に徳島大学へ来たとき、

日本語がほとんど分からなかったのですが、毎日10時間日本語を一生懸命勉強しながら、先生方からより効果的な教授法を学びました。

そんなある日のことです。珍しく徳島では、雪がたくさん降りました。私達はいつものように、F先生の朝の講義を楽しみにクラスに行きました。でも、その日は、M先生が教室にいられて、陽気な声で「おはようございます」と挨拶しました。そして、私たちに、その日の朝のレッスンは彼女が教えることになり、午後のクラスをF先生が教えることになったと伝えてくれました。私たちはその理由を後で知りました。雪のため車が動かなくなり、F先生は途中で立ち往生してしまったのです。しかし、その日、何もなかったかのように、両方のクラスは非常にスムーズかつ温かい雰囲気でおこなわれました。私はそのとき、先生方は本当にプロフェッショナルだと感じました。

鳴門教育大学の先生方も、私に多くのインスピレーションを与えてくれています。教師として、絶えず授業が良くなるように挑戦なさっておられるように思います。私は日本で勉強できる機会を得たことにとても感謝しています。

来年3月、私は日本でのプログラムを終え、母国に戻ります。私は日本語が好きなので、帰国後は、日本語を学ぶことのできる学校で教えることが夢です。最後に、スピーチを聞いてくださった皆さまに心から感謝いたします。どうもありがとうございました。





7月に国際交流員のフランシスカ・ノイゲバウワーさんとトム・ベルマンさんが国際交流員としての任期を終えられました。在任中は徳島県の国際交流の推進に努められました。お二人の益々のご活躍をお祈りいたします。また、トムさんの後任者としてニコさんが8月から着任されました。

初めまして！

新規徳島県国際交流員
ニコ・ボーンザック

こんにちは、みなさん！私の名前はニコ・ボーンザックです。この8月から徳島県で勤務する国際交流員として着任し、徳島県国際交流協会ではAwa Lifeの編集者として従事いたします。さらに、私はJETプログラムの取りまとめ団体アドバイザーでもあります。私は、徳島県と友好交流提携をしているドイツのニーダーザクセン州都ハノーバーから車で約40分南に位置し、6軒の農家だけのドイツでも最も小さな村で自然に囲まれながら育ちました。

10年ほど前にミュージシャンとして演奏をするために日本を訪れた後、遅ればせながら日本に興味を持ち、日本と日本語を中心に東アジア研究を学ぶためにハンブルグに移りました。また、私は大阪市立大学で交換留学生として勉強したことがあります。大学院では、日本の筑波大学とドイツのボン大学の本科生で、韓国の高麗大学では1学期間学びました。私はよく旅行に行き、他の国のことも大好きになったのですが、いつも最後に行き着くのはやはり日本でした。大学院卒業後、私は大阪に戻り日独交流を推進する会社に勤めながら大阪にある最高のお好み焼き屋さんを探し求めました。（もういくつかの候補店は見つけています）私は日本に合計約4年間住んでいます。

不思議なことに、私は近くに住んでいたにもかかわらず、しかも徳島県とドイツの関係を知りながら、徳島県を訪れたことがありませんでした。そして、もうすでに四国の他2



県を訪れました。ですので、私はこの美しい場所で働き、暮らす機会を得ることができて、とても嬉しい限りです。私は特に、鳴門の渦潮をはじめとする自然豊かな山々や海を訪れることを楽しみにしています。私の目標の一つは四国八十八ヶ所を順番に巡ることです。郷土料理を食すことも楽しみの一つです。自然と食を楽しむことに加えて、私は情熱的なドラマーです！ミュージシャンで興味がある方は、遠慮なく私に連絡をしてください！

私は人と人々を繋ぎ、文化の架け橋となり、徳島県と私の故郷の交流に携わることができることをとても嬉しく思います。ここで働くことは私が望んだことであり、他の方たちにもこのスイート・ホーム・徳島で最高の時間を過ごしていただけるように頑張ります。



1年間お世話になりました

前徳島県国際交流員
トム・ベルマン

私は平成29年8月から徳島県の国際交流員として着任いたしました。徳島県とドイツの北に位置しているニーダーザクセン州は平成19年に友好協定を締結し、それ以降、両者間では多様な交流プロジェクトを行っています。私の最初の仕事は徳島県に来日したJETプログラム参加者オリエンテーションと中高校生夏期英語セミナーでした。

国際交流員としての私の主な業務はスポーツをはじめ、文化、IT、教育、環境などに関するプロジェクトを調整することと訪問団員の通訳でした。1年間という短い期間でしたが、私が携わってきた全ての事業について語ると、スペースが足りないくらい長くなりそうですので、一番印象に残った事業を紹介したいと思います。今年の2月にアジア初演100周年を祝う「第九」演奏会をきっかけに、ニーダーザクセン州から100人の高校生が演奏会で歌うために来県し、約一週間、合唱の練習をしたり、高校生に徳島の有名な観光地に引率

したりして、とても貴重な時間を一緒に過ごすことが出来ました。彼らの帰国後、お礼の絵はがきや旅行の日記をドイツから送ってくれました。とても素敵な思い出になりました。また、徳島国際交流協会ではAwa Lifeという月間ニュースレターの記事の作成や編集などの創造力を生かす業務をさせていただきました。



1年間はやはり早いものですね。今、その期間を振り返ればもう少し長い間、徳島に滞在し、もっと面白い勉強と経験を積めば良かったと時々思いますが、ドイツに帰っても徳島で過ごした時間を絶対に忘れません。

結びになりますが、お世話になった皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます！



Bis Bald!



TOKUSHIMA PREFECTURAL INTERNATIONAL EXCHANGE ASSOCIATION

前徳島県国際交流員

フランシスカ・ノイゲバウワー

2年間があつという間に過ぎたなとドイツへ帰国する準備をしながらつくづく思います。時間が過ぎるのはとても早いですね！この2年間、とても楽しく過ごせました。私は今までに徳島県以外の数カ所の場所で住んだことがありましたが、徳島県が間違いなく私のお気に入りです。それは、ここで出会った人々と美しい景色や風景が理由です。私は完全に美しい徳島県の虜になってしまいました。

徳島県で私のお気に入りの場所を紹介いたします。そこは青々とした山々、太龍寺と美しい那賀川が流れる那賀郡那賀町です。那賀町には徳島県と友好交流提携をしているドイツのニーダーザクセン州のカヌー代表団と初めて訪れました。それから私は何回も那賀町を訪れ、ドイツからの友達たちにこの美しい町を紹介しました。

まだ那賀町を訪ねたことがなければ、是非、訪ねてみてください！春には川口ダム周辺の桜が満開になり、秋には紅葉が楽しめ、県民の方たちの人気の場所にもなっています。また、素晴らしい自然を満喫するためにラフティングやカヤックに

も挑戦してみてください。冬に行く場合は、那賀町にある温泉をお勧めします。夏には、太龍寺のロープウェイで山に登れば、山頂で涼をとることができ、「龍の寺」である21番札所を観光できます。

弘法大師の像まで足を伸ばせば、晴れた日なら、阿南市や徳島市、遙か大鳴門橋までも望むことができます。あの景色を観るため、絶対いつか戻って来ようと思っています。

徳島で過ごした時間を思い出深いものにしてくださったみなさんに心より感謝します。素晴らしい経験を持ち帰ることができるだけでなく、自分自身をよく知ることができ、自分の可能性にも気づくことができました。最も重要なことは、一生の友だちを得て帰ることです。最大の感謝を我が悪友に、それから、鳴門の友に向けて感謝をこめてお別れの挨拶をします。



平成30年度 後期 TOPIA 日本語教室 案内

※時間：10:30～12:00 ※場所：TOPIA会議室 ※受講料：無料

※テキスト：「みんなの日本語Ⅰ」または、「みんなの日本語Ⅱ」（第2版）（2,700円/1冊 CD付き）



曜日	先生	レベル	勉強の内容	はじまる日
火曜日	玉置	初級Ⅱ・Ⅲ	《みんなの日本語Ⅱ》26課～50課 可能、意向、命令、禁止、条件、理由、受身、使役、敬語表現など、いろいろな表現を勉強します。	10/2 (25回)
水曜日	ボランティア	グループレッスン	レベルにあわせてグループをつくり勉強します。 *子どもといっしょに来る人は、となりの部屋に子どもをあずけることができます。保育の先生が子どもと楽しくあそんでくれます。(予約してください)	10/3 (20回)
木曜日	山田	入門	《みんなの日本語Ⅰ》1課～13課 日本語の基本的な表現をはじめから勉強します。	10/18 (20回)
金曜日	青木	初級Ⅰ	《みんなの日本語Ⅰ》14課～25課 動詞のいろいろな活用形、て形、ない形、辞書形などと、それを使った文型を勉強します。	10/5 (20回)
日曜日	JTM	初級Ⅲ	《みんなの日本語Ⅱ》39課～50課 理由、受身、使役、敬語、表現などを勉強します。	10/14 (20回)
	ボランティア	グループレッスン	レベルにあわせてグループをつくり勉強します。	

*グループでの勉強は、前日までに申しこんでください。(当日、急に来た場合、勉強できないことがあります)

またグループの数がかぎられているため、自分のレベルにあわないこともあります。

*休むときは電話をしてください。

*水曜日と日曜日のボランティアクラスは、開始後30分過ぎても参加者がいない場合、クラスが休講となります。

火曜日	木村 藤井	特別入門	ひらがな・カタカナが読めない人、書けない人のクラス。あいうえおの勉強と、あいさつ・かず・ものなまえなども勉強します。また、徳島のことについても勉強します。	いつでも はいます。
-----	----------	------	---	---------------

※台風・大雨・大雪により急にクラスがおやすみになることがあります。わからない時は、電話をしてください。

★阿南市国際交流協会、藍住町国際交流協会、吉野川市国際交流協会、NPO法人美馬の里でも日本語教室を開催しています。

(この日本語教室は文化庁事業です)

～県内国際交流団体活動紹介～

多文化共生の「小松島市」へ

小松島市国際交流協会
会長 村上 治郎

今年も、4月にマジェスティック・プリンセス号、そして、お盆の8月13日にはダイヤモンド・プリンセス号等の豪華客船が、小松島港にやってきました。どの客船も数千人の外国人、日本人のお客様が乗っています。私たち小松島市国際交流協会は、通訳ボランティアとして、お客様をお迎えます。

小松島市国際交流協会は、1990年10月に「小松島市民と諸外国の市民とが相互に文化や伝統を尊重し、理解のうえにたつて友情を育み、豊かで平和な世界を築き上げると共に、小松島を国際的な視野に立った心暖かい人達の住む国際貿易港を持つ都市として発展させること」を目的として発足いたしました。1991年7月の「港まつり」の日から、「外国人阿波踊りコンテスト」を20年、20回開催しました。

また、同年の11月には、「国際交流みかん狩り」を行い、外国人と小松島市民が「みかん狩り」を楽しみながら交流する行事を開催しました。この「国際交流みかん狩り」は、大変好評で、今年も29回目の「みかん狩り」を行います。昨年も県内各地より外国人が63名、総勢103名が参加して交流を楽しみました。

地域に根差した国際交流活動として、地域に在住している外国人生活者の支援も行ってきました。小松島市に在住している外国人は日本人の配偶者、もしくは企業で仕事をしている実習生です。日本語講座を2003年から始めましたが、当時はフィリピン人の「花嫁さん」たちが多く学習に来てくれました。

その後、2009年から2013年には4年連続で、文化庁委託の「生活者としての外国人のための日本語教室」事業「わかる！できる！！日本語教室」

を行いました。これは、彼女たちに子どもができ、日本人の家族と暮らしていくことを考えたプログラムになりました。子どもを安心して預けて、日本語学習ができるように「託児」をしました。子どもたちには「日本むかしばなし」の紙芝居や、日本の伝統的な遊びを教えました。外国人学習者たちは日本語学習だけにとどまらず、和食料理教室、幼稚園や学校に行き詰るといふことから、「お弁当教室」、防災教室など、生活に即したことを学んでいきました。これは、外国人学習者の家族にも大変喜ばれる講座となりました。また、「外国人の就労支援日本語教室」も託児付で行いました。こうしたことから、県、市、TOPIAのアドバイスもいただき、2012年からは「インターナショナル子育てサークル もたろう」を発足させました。「地域に知り合いを作る」。外国人母だけでなく、日本人の母たち、子育てに関わる方々も交えた交流の場を作ることができました。

現在、好評なのは、「きちんとだしを取る日本料理教室」と「各国の料理教室と各国の紹介」で、託児付の行事を交互に行っています。直近の「アメリカ独立記念日の特別料理を作ろう」というイベントでは、地域に在住のアメリカ人、フィリピン人等外国人、日本人が総勢60人参加で、盛況でした。

数年前より役員に在住外国人の方を迎え、「生活者」の視点から当協会の活動にアドバイスをいただいています。各イベント等も、一緒に計画し、実行しております。

お互いの顔が見える、双方向の国際交流ができる、「多文化共生の小松島市」を目指して進んで行こうと思っております。TOPIAの皆様、関係機関、諸団体の皆様のご指導ご鞭撻を賜りたく、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。





徳島から国際協力！！

～JICA 信頼で世界をつなぐ事業～

国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト

本コンテストは、次の世代を担う中学生・高校生を対象に、開発途上国の現状や開発途上国と日本との関係について理解を深め、国際社会の中で日本、そして自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考えることを目的として実施しています。

- 募集テーマ：「世界の幸せのために私たちができること」
- 募集期間：2018年6月8日（金）～2018年9月11日（火）
- 応募締め切り：2018年9月11日（火）当日消印有効
- 応募先：〒252-0216 神奈川県相模原市中央区清新8-17-44 株式会社スクールパートナーズ
- 「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2018」係
- 詳細URL：<https://www.jica.go.jp/hiroba/program/apply/essay/>



JICAボランティア2018年度秋募集要領

独立行政法人国際協力機構（以下「JICA」という。）は、下記の要領で「青年海外協力隊（JV）」及び「シニア海外ボランティア（SV）」「日系社会青年ボランティア」「日系社会シニアボランティア」の2018年度秋募集を行います。JICAボランティアとは、開発途上国の人々と共に生活し、相互理解を図りながら、技術や経験を活かして人々の自助努力を促進させる形で協力活動を展開していく海外でのボランティアです。



- 募集期間：2018年10月1日（月）～2018年11月1日（木）正午締切
- ※ウェブサイト上での募集情報公開は、JVは8月31日（金）
- SVは9月14日（金）となります。

- 詳細URL：<https://www.jica.go.jp/volunteer/>

世界のいまを知ろう！～JICAの国際理解講座～

平成30年度 秋学期 徳島大学 大学開放実践センター 公開講座

世界のいまを知ろう！

～JICAの国際理解講座～

開催期間 平成30年10月～12月 会場 徳島大学 大学開放実践センター

開催時間 18:30～20:00 受講料 無料 定員 50名

講座スケジュール 各回、講師はJICAの海外派遣経験者です。

第1回	10/13	中絶「コスト」が、	講師 日本経済大学 池田 洋子
第2回	10/27	ネパールの「ネパールの	講師 大阪府立大学 池田 洋子
第3回	11/10	中国アジアの「中国の	講師 徳島大学 池田 洋子
第4回	11/24	難民アフリカの「アフリカの	講師 徳島大学 池田 洋子
第5回	12/10	大連の「大連の	講師 徳島大学 池田 洋子

お問い合わせ JICA徳島デスク(〒88-656-3303) TEL: 088-656-3303

徳島大学 大学開放実践センターが実施する平成30年度秋冬学期の公開講座にてJICA四国が無料講座を開講します。

■講座内容：JICAは、本部東京の他、海外96拠点、国内15拠点をもち、開発途上国に資金的・技術的な協力を行っています。昨今は、国際社会の共通のテーマである「持続可能な開発目標（SDGs）」の実現を目指し、日本の地域の特徴を活かした国際協力を推進するとともに、国際協力を通じて地域の発展にも貢献する活動を進めています。本講座では、世界の現状を学び、徳島の特徴を活かした国際協力について考えていきます。講師は、徳島県出身のJICA海外ボランティア経験者と県内在住のアフリカからのJICA研修員です。毎週、異なる講師を招き、海外で活動した徳島人、徳島で生活する外国人の両者の講義から、これからの国際協力と徳島の地方創生について考えます。

- 「日時：平成30年10月～11月 18：30～20：00
- 詳細URL：<https://www.jica.go.jp/shikoku/event/2018/1004.html>
- スケジュール：第1回10/4（木）、第2回10/18（木）、第3回11/1（木）第4回11/15（木）、第5回11/29（木）

問合せ

【JICA徳島デスク（TOPIA内）国際協力推進員 長田有加里】
 電話：088-656-3303
 メール：jicadpd-desk-tokushimaken@jica.go.jp



「とくしま外国人支援ボランティア会員」

募 集 中

当協会では、自主的に外国人の方を支援していただく「地域共生サポーター」のほか、「語学ボランティア」「災害時通訳ボランティア」「ホームステイ・ホームビジットボランティア」「活動支援ボランティア」を随時募集しています。

ぜひとも、災害時通訳ボランティアをはじめとする、この制度に、多くの皆様のご協力をいただき、外国人の方をサポートして頂ければ幸いです。

※7月より名称及び要綱・申込書が変更しております。

英語・中国語による

多言語電話相談・窓口案内を行っています

県内在住外国人および旅行等で来県する外国人の方へ、生活相談や観光案内ができるよう、英語・中国語対応の相談（窓口案内）員を配置しています。

電話での相談の際に通訳が必要な場合には三者通話（トリオフオン）もごございます。是非、ご利用ください。

受付時間：平日 10：00～18：00

TEL：088-656-3320（相談電話）

日時、内容等により依頼にお応えできない場合がありますので、ご了承ください。

TOPIA 賛助会員募集中

当協会では、当協会の趣旨と活動内容にご賛同いただける賛助会員を募集しています。賛助会員は協会の情報や会議室の予約を優先して受けることができます。さらに特典の充実に務めてまいります。詳細は当協会まで。資料をお送り致します。

年会費	個人会員	一口	3,000円/年度
	団体会員	一口	10,000円/年度

国際理解教育を応援します

国際理解支援講師派遣

人とふれあい人とつながり

多文化理解&多文化共生！

徳島県の国際化の進展に伴い、多文化共生に向けた県民の意識醸成や国際理解教育の推進を目的として当協会では学校や市町村の機関が行う国際交流活動などに講師（県内在住外国人等）を派遣します。

国際理解支援講師募集中

～母国と日本の交流の架け橋となりませんか～

県内の学校や市町村の機関が行う国際交流のイベント等で、国際理解支援講師として日本語で母国の文化紹介などをしてくださる県内在住外国人の方を募集しています。

在住外国人の方対象の「防災出前講座」をご活用下さい！

当協会では、近年危惧されている南海トラフ巨大地震や、年々増えつつあるその他の自然災害から身を守るために、在住外国人の方を対象にした防災出前講座（言語：やさしい日本語・英語・中国語）を開催し、防災意識の啓発をおこなっています。*申込は当協会まで。



防災出前講座の様子



問合せ：公益財団法人徳島県国際交流協会
〒770-0831
徳島市寺島本町西1-61
クレメントプラザ6F
TEL: 088-656-3303 FAX: 088-652-0616
URL: <http://www.topia.ne.jp>
Email: topia@topia.ne.jp